

港 湾 経 済 研 究

# 輸送システムの变革と港湾

日本港湾経済学会編

日本港湾経済学会年報

No. 10 / 1972

株 式 会 社

成 山 堂 書 店

## 序

日本港湾経済学会は昭和47年度第11回全国大会を神戸市において催すこととなった。その共通論題として「輸送システムの変革と港湾運営」を採り上げ、会員はそれぞれの研究分野の立場からこれを論じ、討議を尽す計画である。日本港湾経済学会の年報である「港湾経済研究」No.10「輸送システムの変革と港湾」は、この問題を中心とし、これに加うるに会員独自の自由論題をまとめて編輯したものである。

近年における輸送は時間の短縮と労費の節減とを目標としてそのシステムが変革されつつある。これは急速な経済成長とこれに伴なう労働不足、賃金高騰とから生じる自由競争場裡当然の帰結といえるであろう。ジャンボ・ジェット機、超高速鉄道・道路、カーフェリー、コンテナ船、ラッシュ船などは端的にこれを実現している。これら輸送機関、殊に船舶の機能的革新は、港湾の施設に顕著な改造新築を要求し、又港湾作業にも幾多の改革を余儀なくし、ひいては港湾労働界にも動揺をもたらしている。国も港湾管理者もこの対策に追い廻わされているのが現状である。

本学会も歳を重ねること既に11年、研究陣も漸く充実し、港湾に関する研究は殆どあらゆる分野でこれをこなし得るまでに発展を遂げた。当初些々たる学会がこれまでに伸びたのは、港湾に対する経済科学的認識が普及したことにもよるが、その基はいわば当初からの学会々員の努力と、国公当局及び港湾関係業者の直接間接の援助によることは言うまでもない。

本書は会員諸氏の最近における業績の集成であり、学界、教育界のみならず、行政に携わる関係方面においても高く評価されるであろうことを期待している。

1972年10月

日本港湾経済学会々長 柴田銀次郎